

対馬暖流は沖よりのルートを取り北上  
対馬暖流の流量はほぼ平年並み  
今後沿岸水温は平年よりも高めで推移する模様

2020年7月下旬から8月上旬に実施した日本海定期観測の結果をお知らせします。

対馬暖流は、本年6月と同様に、松前沖西方の東経139度の海域を北上し、その後積丹半島沖、石狩湾沖にそれぞれ形成されている暖水域、冷水域を迂回し、雄冬岬以北では、沿岸よりに暖水域が形成されているため、沖側を流れています（図1c）。対馬暖流の流量は約1.3Sv（1Sv=10<sup>6</sup>m<sup>3</sup>/s）であり、例年よりも約1割少なくなっています（8月流量の平年値は1.5Sv）。暖流流量は令和元年12月から平年よりも低いレベルで推移していましたが、6月、8月の観測結果から、ほぼ平年並みに戻った模様です。

50m深水温は、沿岸域を中心に広く10℃以上になっています（図1a）。50m深水温偏差は道南の対馬暖流が流れる海域で平年よりも約2～3℃高くなっていますが、それ以外の海域ではほぼ平年並みです（図1b）。

余市前浜水温は7月下旬では「やや高い」でしたが（※1）、今後の気温が平年よりも高めに推移する予報となっていますので（※2）、今後沿岸水温は平年よりも高めで推移することが予想されます。

※1 <https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyau/suion/index.html>

※2 気象庁HPより1ヶ月予報：<http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>



余市前浜水温



気象庁1ヶ月予報

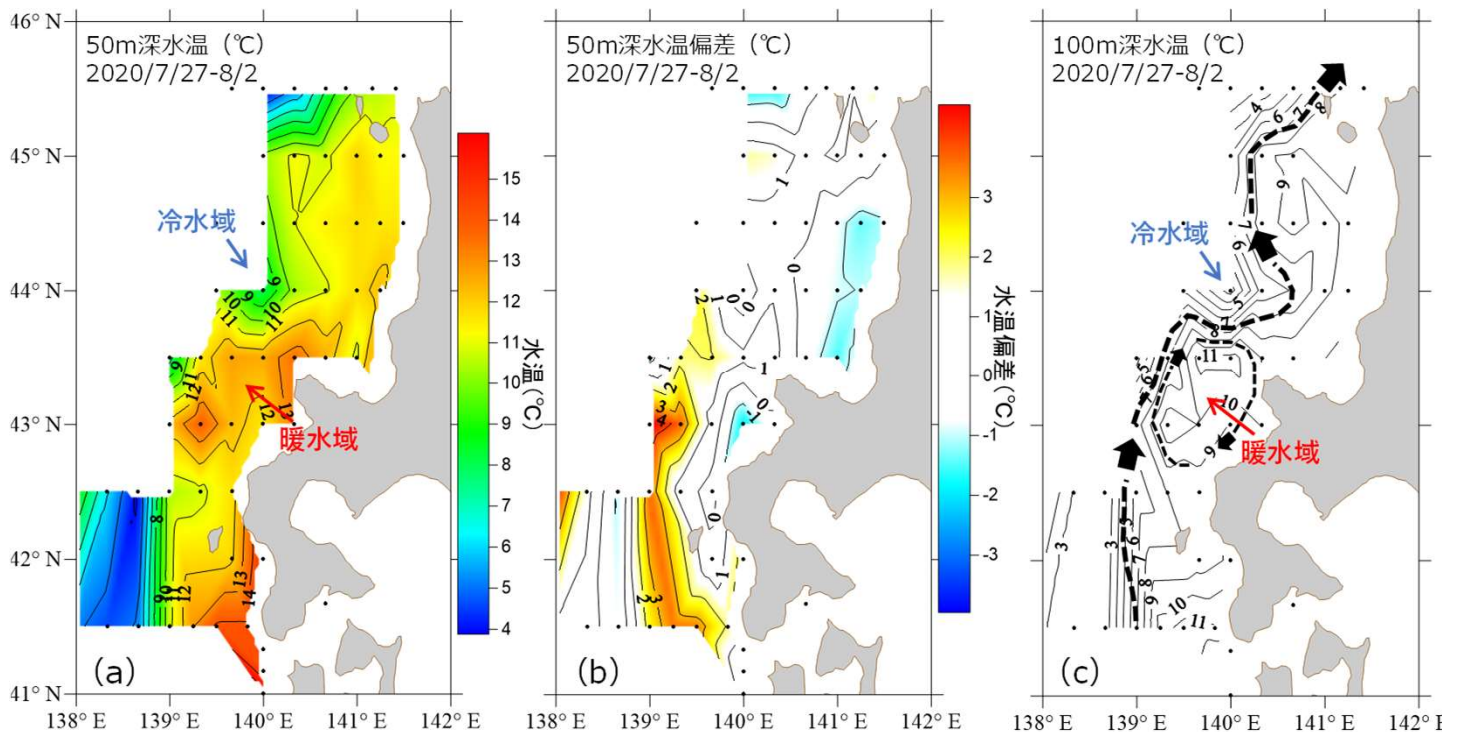


図1 2020年7月下旬から8月上旬における (a) 50m深水温 (b) 50m深水温偏差の水平分布、(c) 100m深水温の水平分布と対馬暖流の流路。水温偏差は過去30年（1989年～2018年）の平均値から算出。流量の単位はSv（=1×10<sup>6</sup>m<sup>3</sup>/s）。